

2008年

7月2日（水曜日） - あしぎぬ顕彰祭 -

本日、弥栄町鳥取「あしぎぬ苑」で、「あしぎぬ顕彰祭」が本市商工会主催で行われ、出席させていただきました。「あしぎぬ」とは、古代織物の一つで、絹織物の元祖だと言われています。今から1,200年前の奈良時代、時の聖武天皇に鳥取（現・弥栄町）の郷から「あしぎぬ」が献上され、今も正倉院で保存されている歴史上の事実があります。全国各地の多くの献上品の中から正倉院としてわざわざ丹後のあしぎぬを今に残しているという事実自体、当時の丹後の絹織物の貴品性、先進性を如実に物語っています。そんな先人の御遺徳を偲び、明治100年の昭和43年に顕彰碑が建立されました。先人の皆様の御遺徳を偲びつつ、「あしぎぬ」が今へと続く丹後織物の今後限りない発展を祈念するため、毎年、この時期に顕彰祭を実施していただいております。

私達の大切な伝統産業である丹後ちりめんは、長く続く不況の中一昨年 of 大手小売業者の破綻による市場の縮小もあり、現在厳しい状況に直面をしております。関係者の皆様には筆舌しがたいご苦労だろうとは思いますが、しかしながら、止まない嵐はなく、朝の来ない夜もありません。また、夜明け前が一番暗い、という真言もあります。丹後織物は、きっと再生へと局面を新たにしていける時を必ず迎える、そして、新たな発展の局面を迎えるための欠かせない準備として、今、産みの苦しみの時期を喰べているのだ、と率直に感じています。そんな思いを抱きつつ、関係者の皆様の大変なご苦労に深謝し、必ずや丹後の織物の末永い再生発展を自然、確信しながら、祈念の祝辞を述べさせていただきましたので、措辞ですが、掲記させていただいて、広く市民の皆様、関係者の皆様と思いを共にさせていただく一端にさせていただければありがたいと思っております。